

メモリーの消去のしかた (データのALL CLEAR)

- こんどきに、メモリーの消去が必要となります。
- a) 不要になった計測データを消したいとき。
- b) メモリーがいっぱい、新しいブロックでのストップウォッチ計測ができないとき。
- c) これから計測しようと思うが、メモリーの残量が少くオーバーしそうとき。
- メモリーの消去はメモリー全部を消すことになります。ブロック単位やデータ単位の消去はできません。

ストップウォッチが計測中の場合はメモリーの消去はできませんので、下記の方法でストップウォッチ計測をフィニッシュさせてください。

- 表示切替スイッチを [STOP.W] に合わせます。
- ボタン **B** を2秒以上押し続けてください。

計測中のデータが必要な場合は計測をすませた後、この操作をしてください。

表示切替スイッチを [RECALL] に合わせてください。

ボタン **B** を2秒以上押し続けてください。



ボタン **B** を2秒以上押さない場合は、メモリーは消去されません。

バックライトとセフティライトについて

- 表示部のバックライトは、必要に応じて点灯 / 消灯が選べます。
- 点灯したライトは、ボタン操作が無い場合60~70分後、自動的に消灯します。
- セフティライトは、ストップウォッチが計測中で、しかもバックライト点灯中の時のみ点滅し、ボタン **A** の入力があると点滅が早くなります。

条件	ストップウォッチ計測中	ストップウォッチ非計測中
バックライトの点灯を選択 ★マーク点灯	セフティライトは点灯 (点滅)	セフティライトは消灯
バックライトの消灯を選択	セフティライトは消灯	セフティライトは消灯

上記の設定に合わせているので、バックライトの点灯 / 消灯を選択することで、使用用途に合わせてられます。

バックライトの点灯 / 消灯の選択方法 [LIGHT ON-OFF]
表示切替スイッチを [TIME] に合わせてください。
ボタン **C** を押すと、バックライトの点灯 / 消灯の選択ができます。
点灯を選択すると「★」マークが点灯します。



バックライトの点灯の方法

- 点灯の方法にはもう一つあります。表示切替スイッチを「POWER SAVE」に合わせてください。[POWER SAVE] 状態から別の表示に切り替えると、バックライトが点灯します。
- 電源に乾電池を使用していますので、ライトの照度はだんだん落ちていきます。
- 寿命切れ近くでは、新品時とはかなり照度の差がでます。
- 低温においては、新品の乾電池でも暗くなってしまいます。
- 乾電池の寿命からライトの照度が暗くなった場合でも、ストップウォッチ計測への影響はありません。

計測と同時にデータを印字したい場合

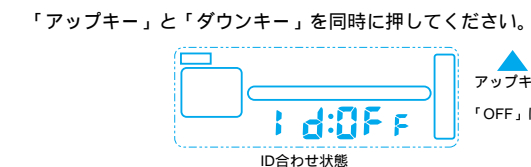
- ストップウォッチ計測中に同時に印字することができます。
- 印字してもメモリーには、通常通り100個のデータまでは残ります。ストップウォッチ計測スタート前に、専用プリンターの準備をします。
- 接続コードをストップウォッチとプリンターにセットします。
- プリンターの「POWER」スイッチをONにします。

計測スタートと同時にデータの印字が始まります。

識別番号について [IDの設定]
• ストップウォッチが複数台ある場合、データの印字がどのストップウォッチから出されたものか、わからなくなることがあります。

- そんなときに、それぞれのストップウォッチごとに識別番号 (ID) を設定してあげれば、印字したデータの識別の助けとなります。

表示切替スイッチを [TARGET] に合わせてください。

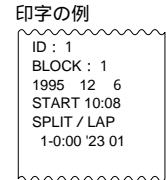


ID合わせ状態で「アップキー」または「ダウンキー」を押して、IDを決めてください。

- IDは1~99の中から選択できます。
- 「1」の前または「99」の後に「OFF」の表示がでます。
- 「OFF」はIDをつけない意味となります。

合わせが終わったら、表示切替スイッチを [TARGET] 以外に切り替えてください。

IDは、データの印字の前に設定してある内容が有効になります。よってストップウォッチ計測時に設定なしでも、印字前に設定すれば印字されます。



各ブロックナンバーの上にIDが印字されます。

各ブロックナンバーの上にIDが印字されます。

各ブロックナンバーの上にIDが印字されます。

各ブロックナンバーの上にIDが印字されます。

各ブロックナンバーの上にIDが印字されます。

各ブロックナンバーの上にIDが印字されます。

各ブロックナンバーの上にIDが印字されます。

各ブロックナンバーの上にIDが印字されます。

各ブロックナンバーの上にIDが印字されます。

各ブロックナンバーの上にIDが印字されます。

各ブロックナンバーの上にIDが印字されます。

各ブロックナンバーの上にIDが印字されます。

各ブロックナンバーの上にIDが印字されます。

各ブロックナンバーの上にIDが印字されます。

各ブロックナンバーの上にIDが印字されます。

各ブロックナンバーの上にIDが印字されます。

各ブロックナンバーの上にIDが印字されます。

各ブロックナンバーの上にIDが印字されます。

各ブロックナンバーの上にIDが印字されます。

各ブロックナンバーの上にIDが印字されます。

各ブロックナンバーの上にIDが印字されます。

各ブロックナンバーの上にIDが印字されます。

各ブロックナンバーの上にIDが印字されます。

各ブロックナンバーの上にIDが印字されます。

各ブロックナンバーの上にIDが印字されます。

各ブロックナンバーの上にIDが印字されます。

各ブロックナンバーの上にIDが印字されます。

各ブロックナンバーの上にIDが印字されます。

各ブロックナンバーの上にIDが印字されます。

各ブロックナンバーの上にIDが印字されます。

各ブロックナンバーの上にIDが印字されます。

各ブロックナンバーの上にIDが印字されます。

各ブロックナンバーの上にIDが印字されます。

各ブロックナンバーの上にIDが印字されます。

各ブロックナンバーの上にIDが印字されます。

各ブロックナンバーの上にIDが印字されます。

各ブロックナンバーの上にIDが印字されます。

各ブロックナンバーの上にIDが印字されます。

各ブロックナンバーの上にIDが印字されます。

各ブロックナンバーの上にIDが印字されます。

各ブロックナンバーの上にIDが印字されます。

各ブロックナンバーの上にIDが印字されます。

各ブロックナンバーの上にIDが印字されます。

各ブロックナンバーの上にIDが印字されます。

各ブロックナンバーの上にIDが印字されます。

各ブロックナンバーの上にIDが印字されます。

ターゲットタイムの使いかた

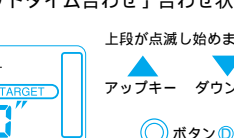
- ある一定の時間の目標タイムに報音させることができます。
- 単なるタイマーとは異なり、ラップ/スプリットを計測した時を基点に設定した時間後に報音します。

ターゲットタイムの設定

表示切替スイッチを [TARGET] に合わせてください。

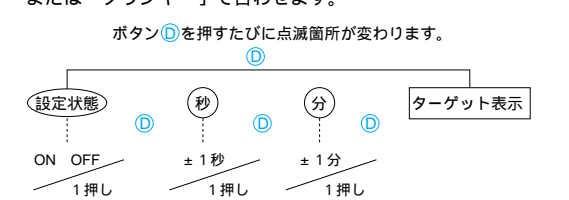


ボタン **B** を押して「ターゲットタイム合わせ」合わせ状態にしてください。



ターゲットタイム合わせ状態

ボタン **D** を押して合わせたい箇所を点滅させ、「アップキー」または「ダウンキー」で合わせます。



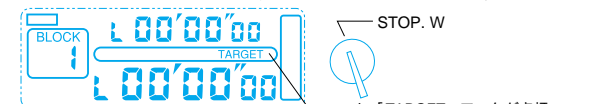
「アップキー」(または「ダウンキー」)を押すと、点滅している数値が1つずつ進む(または戻り)ます。合わせやすい方向のキーを選んで合わせてください。(押し続けると早く変わります)

ただし、「設定状態」は、アップ/ダウンキーのどちらでも「ON」、「OFF」の切り替えになります。「ON」は、ターゲットタイム設定ありです。「OFF」は、ターゲットタイムの設定なしとなり、ターゲットタイムの時間が表示されていても報音しません。

合わせが終わったら、ボタン **D** を押してターゲット表示にしてください。または、表示切替スイッチを [TARGET] 以外に切り替えてください。

ストップウォッチ表示での使いかた (「ストップウォッチの使いかた」も参照)

ターゲットタイムを決め、設定状態を「ON」にします。



設定したターゲットタイムの3秒前から、「3」「2」「1」「0」と報音します。

たとえば、周囲の時間を設定した場合、ターゲットタイムで報音するのと、1周するのとは、どちらが早いかで、その周囲のペースがつかめます。

実際に、周囲ごとにラップ計測をしていくと、周囲ごとにターゲットタイムに対してどうなのかが、つかめます。

ターゲットタイム使用上の注意点 設定「ON」の場合

- スタート後は必ず設定時間で報音しますが、その後はラップ/スプリット計測があると、そこから設定時間経過時に、報音します。
- ターゲットタイムの設定が「00:00」の場合は、設定状態が「ON」でも報音しません。
- ターゲットタイムに満たない状態では、2つまでのラップ/スプリット計測には対応できますが、それ以上は無効となります。1つまたは2つのターゲットタイムの報音が消んでからのラップ/スプリットは有効となります。
- ストップウォッチ計測中でも、この設定の「ON/OFF」や時間の変更ができますが、それが有効となるのは、ストップウォッチ表示に戻り、新しく計測したラップ/スプリットからです。

電池交換のしかた

△注意
「本体用の小型リチウム電池」の交換は、特殊な作業になります。

- 先のとがったものが必要であること。
- 交換後、システムリセットスイッチを押すこと。
- 表示部の「時刻・カレンダー」が所定の表示であるかの確認等。

よって、お買い上げ店またはセイコー取扱店に交換をご依頼いただくことを、お勧めします。

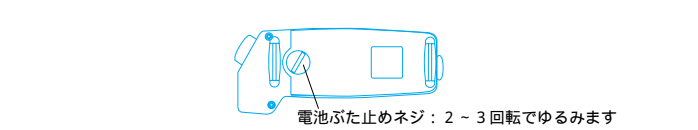
お客様ご自身で行う場合は、以下の説明をよくお読みください。

- 電池ぶたを外すと、単4乾電池の交換が可能です。この乾電池の奥に「リチウム電池」があります。通常は、単4乾電池のみの交換が多いと思われます。

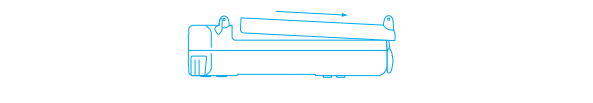
交換用電池の仕様
照明用の単4乾電池・・・市販の「単4マンガン(またはアルカリ)乾電池」2本
本体用の小型リチウム電池・・・市販の「リチウム電池:CR2032」1個 (お客様が交換する場合のみ)

△警告
(1) 交換用の新品の電池や交換後取りだした電池は、幼児の届かないところに保管してください。
(2) 万一反り込んだ場合は、体に害を与えますので、ただちに医師とご相談ください。
(3) 破裂、発熱、発火などの恐れがありますので、電池を充電、ショート、分解、加熱、火に入れることは絶対にしないでください。

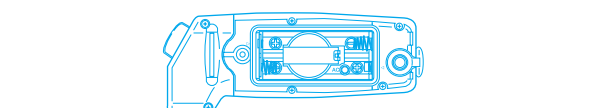
硬貨(500円硬貨が最適)などで、電池ぶた止めネジをゆるめてください。
2~3回転でゆるみます。
ベルトは電池ぶたを外す際に多少妨げになりますので、予め外すことをお勧めします (「ベルトについて」を参照。)



電池ぶたを外します。図のようにややスライドさせるようにすると簡単に外せます。
このとき、無理に電池ぶたを持ち上げると、引っ掛け部の爪が破損する恐れがありますので、ご注意ください。



乾電池2本を取り出します。
この後、本体用リチウム電池の電池交換の必要がなく、乾電池のみ交換する場合は、操作に進んでください。



本体用の小型リチウム電池の交換を行うときは、表示切替スイッチを [TIME] に合わせておきます。先端のとがったもの(千枚通しなど)でリチウム電池を押さえていくパネを図のように外します。

使用済みのリチウム電池をパネの下から、取り出します。

新しいリチウム電池を組み込みます。
電池のマイナス側を下側にして、電池を組み込み、そのままパネを上から押しつけ、引っ掛け部をしっかりと固定されているか、確認してください。



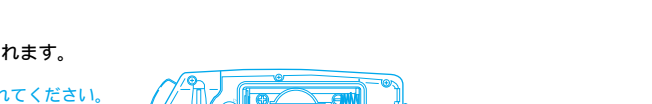
図のようにリチウム電池の近くにある「AC」と書いてある穴を、先端のとがったもので押下げます。この操作で「ICのシステムリセット」をかけたこととなります。正常にはたらいした場合、表示部の表示が右上図のように、「95-1-1 0:00」になります。

新しい単4乾電池を2本入れます。



AC (システムリセットスイッチ)

表示が右図のようにならない場合は、「AC」(システムリセットスイッチ)をもう一度押ししてください。



表示は動いています

表示が右図のようにならない場合は、「AC」(システムリセットスイッチ)をもう一度押ししてください。



表示は動いています



表示は動いています



表示は動いています

